

日吉台地下壕保存の会

会 報

第50号

発行 日吉台地下壕保存の会
編集 事務局(年会費)一口千円で、一口以上
郵便振込口座番号00250-2-74921
(加入者名)日吉台地下壕保存の会会計のお問い合わせ: 白鶴 邦子 港北区下田町1-4-14 045-563-3760
その他のお問い合わせ: 喜田美登里 港北区下田町2-1-33 045-562-0443

'99 川崎・横浜 平和のための戦争展 (第7回)

会 場 川崎市平和館 川崎市中原区木月住吉町 1957 番地 Tel: 044-433-0101
(東横線元住吉駅下車 徒歩 10 分 中原平和公園内)
入場無料 (有料資料あり)

内 容

- (1) 展示 6月12日・13日 午前10時～午後5時
日吉台地下壕・登戸研究所・蟹ヶ谷通信隊地下壕を中心とした写真、
資料、書物、遺品等 ☆特攻隊員上原良司氏の遺品
- (2) 講演・シンポジウム
12日 14:00～16:00 『戦争論』(小林よしのり)をのりこえる平和論
— 登戸研究所保存にかかわって —
渡辺賢二氏(法政二高教諭)
13日 10:00～12:00 若者の発表 法政大学、和光大学他
特別報告 日高忠臣氏(浅川地下壕保存を進める会)
12:45～14:15 ピースロード構想の実現に向けて
長島 保氏(多摩川エコミュージアム)
須田輪太郎氏(国際人形劇連盟名誉会員)
水野次郎氏(県政モニター OB 会会長)
新井揆博氏(蟹ヶ谷通信隊地下壕保存の会)
14:30～15:00 戦争体験を語る 江見俊太郎氏(俳優)
15:00～16:00 それぞれの特攻隊 江見俊太郎氏
上原清子氏(良司氏妹)
山室勝司氏(元通信隊員)
- (3) ビデオ上映 終日 日吉台地下壕・登戸研究所・蟹ヶ谷通信隊地下壕

目 次

ページ

'99川崎・横浜	1998年度活動報告	4
平和のための戦争展(第7回)	1998年度決算報告	5
会長代行を引受けるにあたって	1999年度活動方針	6
川崎・横浜平和のための戦争展	運営委員会報告	6
開催について	連載日吉台地下壕	
総会を終わって	当時の関係者の思い出話	28 7
全国ネット京都大会へのお誘い	1999年度予算	8
	運営委員・会計監査・顧問名簿	8

会長代行を引受けるにあたって

会長代行 大西 章

この四月二四日に行われた第十一回定期総会で新しく会長代行に選出されました。

この日吉台地下壕保存の会は前会長の寺田さんより誘われて、発足当時から会員になっておりました。寺田さんはこれまで地下壕見学会・行政や慶應義塾との交渉・テレビや新聞などマスメディアを通しての広報活動等、この地下壕保存の会の顔として活動され、ご尽力されてきました。この十年間の保存の会活動を支えてこられました。一方私はその活動を端からみて、会報の印刷・発送の手伝いなど事務的な事をするのが主な仕事でした。そのような私には会長のような大役を出来る能力も時間も持っていないのが現実です。しかし、寺田さんが体調をくずされ会長職を辞退なさり、この職をお引き受け下さる適当な方がつかりませんでした。この地下壕保存の会の活動を低迷させる事は私の本意とする事ではなく、微力ながら出来る事をお手伝いするという事で引受けました。幸いにも、寺田さんに副会長職を承諾していただき、また鈴木副会長を始めとする運営委員の方々にも全面的にサポートしていただけたことの確約をいただきましたので、この一年間はこの重責を何とか果たすつもりです。よろしく願います。

さて、この地下壕保存の会が発足して十年がたち、新しい一步を定期総会から踏み出しました。一九九九年度活動方針に挙げられている五項目を中心に活動が続けていくつもりです。地下壕見学会や学習会などを開催し、地下壕保存の必要性をアピールしていく日常的な活動をこれまでどおりに続けていくことと同時に、特に、横浜市が近代遺跡としてこの地下壕を最も高いAランクに位置づけ、文化庁に報告されたことを受けて、二〇〇三年までに文化庁の詳細な調査が行われることに対応するためにも、私達も今まで以上に地下壕を学術的に調査、研究する必要があります。これまでに収集した資料や遺品などを整理し、それをまとめることは行政に対して保存の意義を訴えていく基礎資料になります。そしてそれは地下壕に関心を持つ方々が自ら勉強できる資料にもなると思います。より説得力のある質の高い活動が多くの方々と一緒に出来、輪が広がっていくことを願っています。

また、「戦争遺跡保存全国ネットワーク」のような全国の市民運動と交流する事によって、運動が広がり、運動の進め方などを勉強することもできます。足元を固めると同時にこの活動を全国的な活動とする必要性があります。

以上、この重責を引受けるにあたって思ったことを述べましたが、如何せん微力であることは疑いのない真実であります。運営委員の方々や会員皆様にはいろいろと迷惑をおかけすると思いますが、皆様のご支援と励ましで乗り越えていきたいと思っております。この一年間よろしく願います。

「川崎・横浜 平和のための 戦争展」開催 について

運営委員 亀岡 敦子

日吉台地下壕保存運動の一環としての「平和のための戦争展」も七回目をむかえ、六月一二・一三日川崎市平和館で開催します。

別紙要項にも書いた通り、今年は「平和」という言葉の意味を考える展示や講演・シンポジウムを計画しました。

テレビや舞台で活躍の俳優・江見俊太郎氏が体験を語り、私達の住む多摩丘陵を平和の視点から語り合います。会報四九号掲載の地図に基くピースロード構想です。

このピースロードをプレイベントとして、会員の皆様と

歩くつもりでしたが、ご案内が間に合わず、運営委員での試運転を予定しています。コースを整理し、秋には必ず会報を通じてご案内いたします。

毎回お寄せ頂く賛同金が運営の柱です。どうぞ宜しくお願いいたします。そして是非会場へお運びください。

また、運営に手を貸してくださる方、戦没者の遺書をお持ちの方、ご連絡ください。

電話：〇四五―五六―一

二七五八

総務△△△を最終つて

四月二四日、本年度の総会が無事に終った。

二月頃から、寺田会長が体調をくずされ、特に夜の会合は無理なので、しばらく休ませて欲しいと申し出られ、会長候補を探す必要がでてきた。

三月中旬、相談の会を持ち、慶大の教員の方を中心にお声をかけ、結果として、副会長の大西先生が会長代行をやってくださることになった。

会長候補の声かけは鈴木副会長が精力的にやられたが、こうしたことは一〇年の歩みのなかで珍しいことで、保存の会の再認識につながったと思う。今年一年はじっくりと会長候補をさがすことが課題となろう。

世の中の動きは戦跡保存に向けられてきている。慶大の日吉キャンパスでも、自然環境保護の意識が高まってきているし、地下鉄工事計画案などで、キャンパス全体を考える方向が見受けられる。

保存の会でも新しい会長代行のもと、しっかりと根を下ろしていききたいものである。

総会資料を掲載してあるのでご覧いただきたい。(中沢)

「第三回戦争遺跡保存全国シンポジウム」 京都大会

☆会場 立命館大学 末川会館 (全体集会・会員総会)
立命館大学 国際平和ミュージアム (分科会)

☆日程 ★8月4日(水) 現地見学会 (自由参加=費用別途 案内あり)
午前 ; 宇治の火薬製造所跡 (赤レンガ建築群)
(JR奈良線「黄壁」駅改札前 10:00集合)
午後 ; 伏見の第十六師団跡
(京阪電車「深草」駅改札前 13:00集合)
★8月5日(木) 全体集会(基調報告・特別報告) 末川会館
分科会(第1~3) 国際平和ミュージアム
★8月6日(金) 分科会(第1~3) 国際平和ミュージアム
(午前中) 閉会集会・会員総会 末川会館

お問い合わせ

喜田美登里

045-562-0443

おいでやす
京都へ

参加希望者を募集!

1998年度活動報告 (案)

日吉台地下壕保存の会は1998年度も、会員の皆様からご支援、ご協力を頂きながら様々な活動を行って来ました。

日吉台地下壕の保存運動にとって、文化庁が進めている近代遺跡の所在調査において「政治」の分野で神奈川県からAランクで報告された事や、1997年に結成された「戦争遺跡保存全国ネットワーク」等、戦跡の保存を進める全国の市民団体と交流を深め、協力しあえる事は、明るい状況として、ご報告いたします。その一方で、地下壕のある学生寮の斜面にはマンション、住宅が建設され、時間が過ぎればさらなる開発の心配から逃れることはできません。日吉駅まで伸びる市営地下鉄4号線がこの先、鶴見駅までを目指すとするれば、慶應大学の丘はその線上にあります。

私たちはこれからも皆様と共に力を合わせて戦争遺跡の保存運動を進めていきます。

- ◇ 日吉台地下壕保存の会 ● 会員数 約500名 (4月8日現在)
 - 運営委員会開催 11回 ● 会報発行 4回 (46, 47, 48, 49号)
 - 地下壕見学会 16回 約300名を案内 (保存の会主催は1回、他は申し込みによる)
 - 学習会 1回 12月5日 「体験者の話を聞く会」
(土方貞彦さん 海軍連合艦隊司令部通信班 山室勝司さん 海軍東京通信隊蟹ヶ谷分遣隊)
- ◇ 「第6回横浜・川崎平和のための戦争展」開催 かながわ県民センター7月18-19日
(日吉台地下壕保存の会 川崎平和ウォーキングマップ作り実行委員会 蟹ヶ谷通信隊地下壕保存の会)
展示 講演 シンポジウム等
- ◇ 「平和のための戦争展 in 横浜」参加 展示 かながわ県民センター5月22-24日
- ◇ 「平和のための戦争展 かながわ」参加 展示 横浜市民ギャラリー8月13-18日
- ◇ 「第2回戦争遺跡保存全国ネットワーク」沖縄大会 沖縄南風原町6月21-22日
(運営委員3名参加)
- ◇ 第33回南風原文化センター企画展「今に語る戦争遺跡展」展示
- ◇ 戦争遺跡保存全国ネットワーク運営委員会 参加 長野¹⁹⁹⁹3月20-21日
- ◇ 「赤れんが倉庫に平和博物館を」実行委員会等に参加

以上

1998年度 決算報告 ~~案~~ (単位は円)

費 目	1998年度予算	1998年度決算	備 考
【収入の部】			
会費	338,000	357,930	272名 4団体
カンパ	0	1,200	
事業益	0	220,725	本、冊子、絵はがき等
雑費	0	329	利息等
繰越金	594,390	594,390	
計	932,390	1174,574	
【支出の部】			
会議費	50,000	49,674	各種会合費
事務費	50,000	29,330	事務用品等
印刷費	100,000	18,880	会報・資料等
通信費	200,000	213,170	会報・郵送費等
資料費	50,000	5,100	書籍・資料等
謝礼	50,000	12,835	講演・学習・調査等
交通・交流費	200,000	186,560	全国集会・各平和展 賛同金
予備費	232,390	30,000	全国集会運営委員会
計	932,390	545,549	
差引残高	0	629,025	

以上の通り報告いたします。

1999年4月19日

日吉台地下壕保存の会会長
寺田貞治

この報告により収支を監査したところ、
適正に処理されていることを認めます。

会計監査 森山高行 印
会計監査 天野喬子 印

1999年度活動方針 (案)

私たちが進めている日吉台地下壕の保存、整備、資料館の建設の運動課題は、一昨年から始まった日吉台地下壕に関わる民間の土地の売却、マンション建設によって必ずしも順調には伸展していない状況です。

しかし、私たちの十年間の活動を通して、この史跡が近現代史に残るA級の戦争遺跡であることが明らかになってきています。また私たちの保存運動の方向性は戦跡保存運動として全国の戦跡保存運動と連携して進めていくことであることも次第に明らかになってきています。

私たちは引き続き横浜市や神奈川県、並びに文化庁、慶応義塾及び地域住民に日吉台地下壕の保存を訴えとともに、連絡を取り合い、一刻も早い保存の決定を働きかけていかなければなりません。また、県内、国内の文化財関係者や戦争遺跡に関わる市民団体との連携を更に深めながら、力を合わせて保存運動を盛り上げていく必要があります。

そのため私たちは下記の運動を進めます。

- ①慶応義塾、地域の人々と日吉台地下壕の保存についての話し合いを深め、史跡として保存されるように、横浜市や神奈川県、文化庁など関係当局に働きかけていく。
- ②学習会・見学会・シンポジウム・平和のための戦争展などを開催し、日吉台地下壕の保存の必要性をアピールし、世論を喚起する。
- ③「戦争遺跡保存全国ネットワーク」のような戦跡の保存を目指す全国の市民団体と積極的に交流し、共に戦争遺跡の保存運動を盛り上げていく。
- ④日吉台地下壕に関する調査、研究ならびに資料、遺品の収集を進め、史跡としての意義や価値の評価を高めるように努力する。
- ⑤事務局体制の整備・充実をはかる。その一環として、インターネットの活用、ホームページの開設も検討する。

以上の様な活動を通して日吉台地下壕の保存・整備並びに資料館建設への実現に向けて努力していきます。会員の皆様のご協力と活動への参加をさらにお願いたします。

運営担当 永田昌子 弘根生口

(第一回)

五月一〇日一八時半

東急3F フードギャラリー

報告

一、四月二四日戦争展inよこ

はま実行委員会に参加

二、五月八日戦争展かながわ

発足総会に参加

三、五月一六日川崎市民平和

のつどいの見学会

四、五月二一〜二三日戦争展

inよこはま展示参加

五、五月二三日戦争展プレイ

ベント日吉かいわいを歩く

六、四月一八日川崎・横浜

戦争展実行委員会(第二回)

七、五月一四日川崎・横浜戦

争展実行委員会(第三回)

八、五月二六日会報五〇号発

行・発送予定

議事

本年度活動計画

役割分担

全国ネット京都大会

連載

日吉台地下壕

当時の関係者の

思い出話 28

情報の軽視「夜行虫事件」

実松議氏の話

(ききて…寺田貞治)

日本海軍が情報を軽視した例として「夜行虫事件」がある。

敗戦間近い昭和二〇年七月二八日、西敏郎海軍中尉(慶応出身)を班長とする五名の予備士官が、本土決戦に備えた情報部隊の一部として横須賀鎮守府に着任した。

八月一日の午後一〇時頃、「敵輸送船約百隻、相模湾二向ヶ北上シツツアリ」という緊急信が、伊豆大島の見張所から届いた。鎮守府司令部の作戦室はにわかに緊張、直ちに予定計画によって部隊を配

備につける準備が進められる。

その時、西は自信たっぷりの表情で「この報告は、何らかの誤報であると思います」と確言した。幕僚達から見れば、西は未輩の中尉の予備士官にすぎない。誰一人彼の発言に耳をかそうとはしない。しかも着任早々だったので、西の人物や識見などは何も分っていない。

しばらくして、今度は千葉の布良の見張所から同じような情報が飛込んできた。先の大島からの緊急信を明かに確認するものだった。もはや一点の疑問もなく、「一刻の猶予も許されない。——」と参謀達は判断した。が、西は「これは何かを誤認した嘘報である」と主張しつづけ、その理由を条理をつくして説明した。

西中尉は、対米情報課で修得した米軍上陸作戦の慣用戦

法と、敵の現実の動きとから

導いた判断を大先輩の参謀達の前で、何等臆するところなく堂々と述べた。しかし、最

近の敵の本土空襲以来、疑心にかかられている参謀らは、西の言葉に耳を傾ける心のゆとりはなかった。「貴様みたいな者に、敵の企図や行動が分るものか……」と西の見解をあっさり一蹴してしまった。

だが西は、あくまで自分の所信を主張しつづけ、最後に「もしも私の判断が間違っていたならば、腹を切ってお詫びします」とつけ加えた。こうした西の真剣な発言も「君が腹を切ったぐらいですむと思っか!」といなされるだけであった。

横須賀鎮守府は、ついに本土決戦配備を発令したのである。

日吉台にあった海軍総隊も、これに引きずられて「決三号

作戦」を発令した。「決号作戦」とは本土方面の作戦のことで、「決三号」とは関東方面をいう。

それからしばらくして、大島の見張所から、次のような訂正電報が届いた。「サキノ報告ハ夜行虫ノアヤマリ」司令部は狼狽した。「欠号作戦」の発動は、訓練のために行なわれた」という意味のことを示達して、その場を糊塗したが、その苦しいような表情は隠すことができなかった。

ともかく、鎮守府の情報に対する認識は、この程度のものであった。

(生協ニュース教職員版第四二号より抜粋転載)



1999年度

日吉台地下壕保存の会

運営委員・会計監査

顧問

会長代行 大西 章

副会長 鈴木 順二

" 寺田 貞治

運営委員 新井 揆博

" 老岐 尚子

" 岩崎 昭司

" 岡上 そう

" 亀岡 敦子

" 喜田美登里

" 酒井 啓

" 佐相 康雄

" 白鶴 邦子

" 谷藤 基夫

" 常盤 義和

" 遠山 孝治

" 都倉 武之

" 中沢 正子

" 中谷 俊吾

" 林 ちづ

" 茂呂 秀宏

会計監査 天野 喬子

" 森山 高行

顧問 薄井 芳夫

" 永戸多喜雄

" 佐藤 林平

" 鮫島 重俊

" 田辺 和男

" 田辺 昇

" 東郷 秀光

1999年度予算 (案)

(単位は円)

費 目	経 費	備 考
【収入の部】		
会費	280,000	272×1000 4×2000
カンパ	0	
事業益	0	
雑費	0	
前年度繰越金	629,025	
計	909,025	
【支出の部】		
運営費	100,000	各種会合、保管料等
事務費	50,000	事務用品等
通信費	230,000	会報、資料発送等
印刷費	30,000	
資料費	30,000	書籍、資料等
謝礼	80,000	講演会、調査等
交流費	300,000	全国集会、各種平和展賛同金等
交通費	50,000	全国集会調査等
予備費	39,025	
	909,025	

収入の部の会費収入は1998年度会費 納入者272×1000
納入団体 4×2000 計28,000として計上しました。

1999年4月19日

日吉台地下壕保存の会
運営委員会